

課題解決への見通しをもつ力を育む中学校保健体育指導の在り方(第二年次)

－「学びの視点」を基に、運動実践と検証を繰り返す学習場面を通して－

玉川村立玉川中学校 福島県教育センター 長期研究員 桃井陽介

1 研究の趣旨

中学校学習指導要領解説保健体育科の目標では、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して三つの資質・能力を育成することが示されている。また、「第7次福島県総合教育計画」に示される本県の方針と自身の反省を踏まえ、課題解決への見通しをもつ力を、「課題を発見し、解決へ向けた予想の下に対策を講じ、振り返って効果を検証する力」と定義し、その育成を図った。

第一年次研究では、生徒が自他の課題を発見し、改善するための視点として、「学びの視点」^{※1}を設定し、運動の分析や対話を行う思考場面をデザインした。これによって、生徒が課題に応じて活動を工夫し、自己理解を深めながら課題解決に向かう姿を引き出すことができた。一方で、課題を発見したものの、授業の振り返り場面で対策の効果を検証し、運動実践を繰り返し修正・改善していくことができた生徒は限られていた。

以上のことから、第二年次研究では、主題の力について、特に課題解決のために講じた対策の実践と検証の場面に焦点化し、「生徒が対策をよりよく修正・改善しながら課題解決に向かう姿」の実現を図ることとした。仲間との対話や運動実践から、見通しをより確かなものにするために「学びの視点」を活用し、よりよく課題を解決する方法を考える力を育成したいと考え、以下の仮説を設定した。

※1 本研究において、体育の見方・考え方に示される運動・スポーツへの多様な関わり方を踏まえ、「する・みる・支える・知る」の四つの視点から、運動における自他の課題を発見し、改善するための視点として定義した。

保健体育科の授業において、以下の手立てを講じれば、課題解決への見通しをもつ力を育成することができるだろう。

【手立て1】 実践、検証のサイクルを機能させる対話場面での「学びの視点」の活用

【手立て2】 学習成果を実感させる振り返り場面での「学びの視点」の活用

2 研究の概要

(1) 【手立て1】 実践、検証のサイクルを機能させる対話場面での「学びの視点」の活用

課題への対策、実践、検証を繰り返し、活動を修正・改善しながらよりよい課題解決を目指す。まず、「学びの視点」に沿って講じた対策を実践する。次に、実践内容を検証し、改善策を考える。その際に、「する：試す、確かめる」「みる：観察や比較をする」「支える：教え合う、助け合う」「知る：調べる、理解する」を手掛かりに仲間と対話を行う。これによって、多様な気づきや考え方を取り入れ、検討の精度を高める。仲間とともに対策を見直し、運動実践で確かめる学習過程を繰り返すことで、よりよい方法を考えて実践できるようにする。

(2) 【手立て2】 学習成果を実感させる振り返り場面での「学びの視点」の活用

自分自身や仲間、班の変化や成長に気づき、学習の成果を確かめる。「する：できるようになったこと」「みる：観察や比較から気付いたこと」「支える：教え合ったり助け合ったりしたこと」「知る：わかったことや理解が深まったこと」等についてワークシートや授業記録を基に振り返り、運動への多様な関わり方を通して課題解決を図った成果を捉えられるようにする。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 「学びの視点」によって、課題解決について考え、それを仲間との対話やワークシートで検証することで、多くの生徒が効果を確かめながら対策を修正・改善することができた。また、運動について考え、仲間と協力することを価値付け、前向きに挑戦する意欲を高めることができた。

(2) 今後の課題

- 「学びの視点」を示しても多様な成果を振り返れない生徒がいたこと、課題解決の経験が次の学びに結び付かなかったことが課題である。どのような種目でも課題解決への見通しをもつ力を活用できるように、生徒たちが「自ら考えて、活動を選択する機会」を確保する必要があると考える。